

TOKYO CHUO SHIN ROTARY CLUB

も学校内で夕焼番長が相手となり、話しづらかったんじゃないかと思えます。

- その後京都の生活も、主人と私で京都と東京を行ったり来たりでなんとか安定してきましたが、私の世代は生活のために働いているかママさんバレーなど思い思いに遊んでいるかで、なかなか友達が出来ず、心に穴が開いた状態でした。主人が会社へ行き、子どもたちが学校へ行ってしまうと、心が負のスパイラルに入って一人家の中でぼろぼろ涙を流していました。

そのころ、主人が京都でロータリークラブに入会し、私も時々参加したところとても楽しそうでしたので、私も入りたいと思いました。たまたま主人が当クラブに電話を入れたところ、吉国さんがとても親切に対応して下さい、主人が「やばいよ、やばいよ。すごく丁寧に話していただいたよ」と大喜びで、その後私が秋葉会長にご挨拶し、私が「40代後半になって家事も手抜きでOKの生活をしている私でも入会してやっていけるでしょうか」とお訊ねしたところ、会長が「40代の渾垂れ小僧が何を言っているのよ。人生はこれから50代以降が大変なのよ」と活を入れて下さり、すごく楽しくお話し下さったので、又涙がぼろぼろ出てしまい、早速入会の決心を致した次第です。

高橋辰三会員

- 私は34歳で結婚歴のない独身で、池尻大橋でアジアンタム法律事務所の代表弁護士をしています。事務所のシンボルでもあるアジアンタムは、南米ブラジル原産で、繊細な乙女の毛髪ともいわれ、周年出廻っている安定感ある観葉植物ですが、たまたま自宅にも置いてあり、事務所の名前を付けるとき、「高橋事務所」では平凡すぎるし、「アジアンタム」なら電話帳のトップの方にくるのではとも思い、名称として借用したのです。
- 私は群馬県藤岡市出身で、2002年に上京して慶応大学で学び、2009年から弁護士登録をして勤務弁護士になり、2010年には独立してアジアンタム法律事務所を開業しました。
- 秋葉会長は、父の高校の同級生で、一度も会ったことがなかったのですが、独立したところ成田ゆめ牧場の秋葉会長から年賀状が来て、何だろうと思っていましたが、その後直接連絡を頂くようになり、今回の入会に繋がりました。
- アジアンタム法律事務所は、現在私と2人の弁護士の3名が所属しています。3年前、大学で5年下の後輩の増田君が入ってくれて、週1,2回は飲みに行く仲間でもあります。増田君はその後結婚したので、今で



は奥さんも交えて飲みに行っています。もう1人は大学時代のゼミの先生で、大学教授長期経験者の枠で65歳の停年に備えて弁護士となり、フランス法などに詳しく国際仲裁裁判所の仕事等をしておられます。

目黒天空庭園

首都高大橋ジャンクションの屋上のドーナツのような楕円形部分を緑地化した大庭園の目黒天空庭園に出入りしているうちに、栽培ガーデニングクラブの代表にならされてしまい、今は協働して、野菜やぶどうを栽培しています。

目黒天空ワイン

目黒天空庭園で栽培したぶどう（マスカットベリーA）を、山梨県勝沼のワイナリーで赤ワインに醸造して頂いています。東京新聞の一面に「住民夢膨らむ」としてこのワインが取り上げられました。

ワイン用ぶどうの栽培は堆肥作りから始まります。公園の落葉などを積み重ね、発酵させ、2週間に1回位混ぜる作業を続けると1年くらいで完成します。去年は堆肥の効果があつたのか、20本の木から96キロのぶどうが取れました。将来は樹を増やして、150キロから200キロに増やしていきたいと思っています。

収穫祭

公園では、毎年収穫祭が行われ、天空ワインやピーマン・バジル・トマト・ニラ・スイカなど取れたての野菜などが振舞われます。

趣味 NTT ラップ

私は趣味でヒップホップミュージックのラップをやっています。去年3月増田君の結婚式の披露宴の主賓挨拶を、私の人前でのラップ公開デビューの日としました（当時の動画を流す）。新婦の勤め先はお堅い会社なので、私の後で挨拶された新婦主賓の支社長は大変やりにくそうにお話しされていました。

弁護士会音楽同好会

その後弁護士の音楽好きが集まり、今年同好会を立ち上げ、日弁連ビルの大ホールで開かれたライブに私も3曲の新曲を作り参加致しました（そのうちの一曲「虚偽証言」の動画を流す）。

私はこんな感じの人間ですが、今後共ロータリアンとしてご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

（要約文責宮下）



クラブ週報 宮下 文夫・小堀 彰・川上 鉄太郎
編集担当 落合 守征・左 明貴子・吉田 しおり



TOKYO CHUO SHIN ROTARY CLUB 東京中央新ロータリークラブ週報

例会日 毎週月曜日(12:30~13:30) 会場 帝国ホテル3F 舞の間
会長 椎野 登貴子 幹事 石原 忠始
事務局 〒104-0061 中央区銀座8-11-12 正金ビル2F
TEL 03-5537-0270 FAX 03-5537-0271 <http://blog.livedoor.jp/chuoshin/>

2018-2019年度 国際ロータリーテーマ「インスピレーションになろう」

本日の例会 第712回 2018年8月6日(月)

📌 テーブルスピーチ (仮)

例会報告 第710回 2018年7月23日(月)

出席率 62.07% 出席者25名+メーキャップ11名
(正会員61名・休会3名)

📌 会長報告(椎野登貴子会長)

今年度のテーマを「次世代元年」とし、若い新会員の活躍の場を広げる活動に注力して参ります。色々な活動の場に出て行くことで、100年以上続いているロータリー運動の奥深い真理を垣間見ることが出来るのではないのでしょうか。当クラブの奉仕活動である育成園のキャンプも画廊巡りも、10年以上続く素晴らしい奉仕活動となっています。7月10日に画廊巡りが行われ、当クラブの6名を加え13名の協働により子どもたちと楽しく画廊巡りを行うことができました。又、11月13日に次回が企画されていますので、皆様のご協力をお待ちしております。

📌 幹事報告(石原忠始幹事)

- 本日は週報(新版第1回)とバギオだよりを配布致しました。
- 地区ガバナーから、被害甚大な「西日本豪雨災害」に対する義援金」のお願いが参っております。7月23日・30日・8月6日の例会で義援金BOXを廻しますので、皆様どうぞ募金をよろしくお願い致します。本日既に4万円集まっております。

📌 東京中央RC会長御挨拶(三田清東京中央RC会長)

現椎野会長と石原幹事は大変強力なコンビで今年度の活躍を期待しております。昨年度の地区会員増強セミナーでは貴クラブの秋葉会長に代わって富田幹事が報告されていましたが、素晴らしい内容でした。

当クラブでも去年は強力な会長と幹事のタッグで33名の新会員を迎えております。

という組織でも強力な年度の次の年はやりにくいものですが、とりあえず勢いだけでも引き継ぐ心意気で進めて参ります。

📌 表彰(秋葉良子会員、小沼百合子会員)

2750地区ガバナーから秋葉会員と小沼会員に会員増強の尽力に対し表彰状と記念品が届き、椎野会長からお二人に渡されました。



📌 ニコニコ

- 杉山さんの卓話楽しみに参りました。
(東京恵比寿RC直前会長 橋高薫子様)
- 椎野年度の出発おめでとうございます。東京中央RCをよろしくお願いいたします。
(東京中央RC 三田清会長)
- 母がいつもお世話になってありがとうございます!
(辻幸一郎様)
- お暑いですね。結婚式でハワイに行っており、秋葉年度の最後に出席できませんでした。椎野年度、お暑いですが、一年宜敷くおねがいします。(岡田敏江会員)
- 八王子が40℃近くになったらいいです! 暑さ対策、塩と水でのり切りましょう。(かづきれいこ会員)
- バースデーケーキありがとうございました。昨日は娘が手作りのケーキを届けてくれました。夜には同じ誕生日の原元監督や元ラガー・マン・アニマル・藤原さん達の誕生日会にジョイン。幸せな一日でした。(白水真子会員)
- 14年ぶりという猛暑にみまわれております。皆さん、体調に注意してこの夏をのりきってまいりましょう。
(曾根章乃会員)
- 西日本をおそった豪雨で被害にあわれた皆様お見舞申し上げます。(辻喜代子会員)
- 本日は、親愛なる杉山文野さんを卓話でお呼びいたしました。多様な価値観を感じて下さい。(野呂洋子会員)
- 暑さの中でがんばってる方々の為に。(林茶理会員)
- 毎日暑い日が続きますね。暑い日には昔の人の様に梅干をもって塩分補給をしています。(丸山富美江会員)

合計 27,000円 今期累計 66,000円

❖ 卓話「はじめてのLGBT ～性の多様性」
トランスジェンダー活動家
株式会社ニューキャンパス代表取締役
杉山文野 様

- 1981年東京都新宿区生まれ。フェンシング元女子日本代表。
早稲田大学大学院にてセクシュアリティを中心に研究した後、その研究内容と性同一性障害と診断を受けた自身の体験を織り交ぜた『ダブルハピネス』を講談社より出版。
韓国語翻訳やコミック化されるなど話題を呼んだ。卒業後、2年間のバックパッカー生活で世界約50ヵ国+南極を巡り、現地で様々な社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に3年ほど勤め、現在は自ら飲食店を経営するかたわら、日本最大のプライドパレードである特定非営利活動法人レインボープライド 共同代表理事、セクシュアル・マイノリティの子供たちをサポートするNPO法人ハートをつなごう学校代表、各地での講演会やNHKの番組でMCを務めるなど活動は多岐にわたる。日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ条例制定に関わり、現在は渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務める。
- 生まれた時、僕にはおちんちんがついていなかったの「二女」として登録され、幼稚園から高校まで、女の子としての生活を余儀なくされてきました。子供のころは男の子とばかり遊んでいたのに、小学校に入ると仲良しの男の子は皆別の小学校へ行き、僕は女子校に入ったのです。髪型もずっとショートカットで、服もTシャツに短パンで、初対面の人に女の子に見られることはまずありませんでした。七五三は、女として2回、男として1回祝ってもらいました。
- 父は新宿歌舞伎町で、創業50年以上の古いとんかつ屋を営んでいます。父はおっとりして優しく、俳優の石田純一さんのような感じの人で、大声を出したり、怒ったりした姿を見たことがありません。母はゴッドマザーで、パワフルで頼りがいのある人です。又マザコンではないのですが、母はやっぱり美しい人だと思います。姉は僕と対照的にごく普通の女の子です。ネイルにアロマにワインと長風呂が大好きです。祖母のハナちゃんは、85歳を越えたのに、よく食べ、よく飲み、よく喋ります。飼いたのミニチュアダックスのモモとは近所でも有名なコンビで、家の前をふたりでひたすらうろうろして、どちらが散歩の主役かわかりません。
- 小さいときから身体を動かすことが好きで、いろいろなスポーツに挑戦しましたが、常に壁がありました。最初は水泳です。子供のころ、水泳教室に通ううちにバタフライもすいすい泳げましたが、女子用水着がいやで、小6で生理が来たこともあり、引退しました。剣道もやりましたが、女子は赤胴白袴が決め衣装なので、これが嫌でフェンシングへ転向しました。
- フェンシングは男女共同白いユニフォームなので、ずっと続けることができました。スクールには同年代の男の子が沢山いました。「義理と人情」を大事にする先生の下で、みっちり体育会の厳しさを植え付けられました。剣道をやっていたせいか、始めて2,3ヵ月で同年代の男の子をパンパンやっつけるようになりました。1年たったときに小学生の全国大会で3位に入賞しました。中2でアジア大会



- 代表になり、準優勝してしまいました。このころは周りも男扱いしてくれました。
- フェンシングは、上品・高貴とされていますが、実はボクシングに近いです。持久力・筋力・瞬発力が必要な激しいスポーツです。とはいえ、僕はフェンシングでも女子として試合に出るしかない自分に違和感をもっていました。大学を卒業した年の2004年にたまたまゾーンに入った時に代表決定戦があり、「女子フェンシング日本代表」に入ったのです。しかし、翌年には代表落ちとなり、ワセダクラブのコーチとして子どもたちや社会人にフェンシングを教えるようになりました。
- 女子校の中で、中学2年から高校2年にかけて初めて彼女が出来て、自分の性的な障害感まで打ち明けて交際していました。学校内で噂になっても耐えていたのに、私が人目を気にしすぎたことから別れることになり、本当の自分を話した唯一の理解者を失った僕は少しずつカミングアウト（世間に自分の性障害を公表していくこと）するようになったのです。そのころは夜も眠れず、食事ものどを通らず、日に日に痩せて、フェンシングにも身が入らなくなっていました。
 - 高校時代、一番仲の良かったバスケ部キャプテンのハヅキが、僕を強制連行して薄暗い部室で「絶対おかしいよ。今さら何言われても驚かないから言ってみな」と言われ、17年間張り詰めていた糸が切れてしまった僕は声がふるえて号泣しながら吐き出しました。ハヅキは黙って聞いてくれていましたが、口を開いて、「それでわかったよ。性別がどうあれ、フミノはフミノじゃん」と。
 - それ以来、仲の良い友達には少しずつ打ち明けるようになりました。
 - 家族へのカミングアウト
父・姉には割と素直に説明できたのですが、母にはうまく話せませんでした。性同一性障害という言葉も知らない母は、「女子校に入れたのがまちがだったのよ」とか「あんたはおかしい」「カウンセリングに行きなさい」などなかなか理解してもらえませんでした。3年くらいたって、母もいろいろ調べたらしく「ちゃんと産んであげられなくてごめんね」と言われました。性同一性障害の原因はまだ解明されていませんが、人の胎児における性分化の機序は極めて複雑で、妊娠時代の母体のストレスがひとつの要素とする説もあるからでした。その後、母とのわだかまりも解け、今では家でも外でも笑って性別について話せるようになっていきます。
 - ある調査ではLGBTの出現率は5%から8%と言われ、日本では1000万人弱出現していると考えられており、3年前日経ビジネスの表紙にもなり、マーケットとして5.9兆円規模との試算もあり、現在では結婚式・携帯電話のファミリー割引対象・生命保険の受取人指定などのいろいろな分野でLGBTが認められてきています。
 - 渋谷区が始めた「パートナーシップ証明」の発行は、現在8つの自治体で実施されるに至っています。オリンピック憲章でも「性同一性での差別」を禁止されるまでになりました。
 - 僕は今、NPO法人の活動などを通じて、LGBTの社会的な理解を広げるために傾注しています。その一つの活動として、「プライドパレード」を毎年開催しています。ゴールデンウィークに代々木公園を様々なLGBT達がのぼりや旗を振りながらパレードするものです。6年前は4500人くらいだった参加者が、今年は15万人を超える程になり、社会的認知の広がりを実感しています。
- (要約文責 宮下)

例会報告 第711回 2018年7月30日(月)
出席率 55.17% 出席者27名+メーキャップ5名
(正会員61名-休会3名)

- ❖ 会長報告(椎野登貴子会長)
今期のG7サミットでは、カナダから海洋プラスチックごみ対策のため、「2030年までにプラスチックのリサイクルを完結させよう」との憲章が提案されましたが、日本とアメリカを除く5ヵ国しか署名しませんでした。海洋国の日本はむしろ率先して取り上げていくべきではないかと考えますが、皆さんはいかがお考えでしょうか？

- ❖ 幹事報告(石原忠始幹事)
• 本日の配布物は、青少年交換プログラムにより海外へ派遣されていた小さな親善大使8名の帰国報告会のご案内(9月2日(日)午後2時から渋谷区代々木オリンピック青少年センター)です。
• 本日、先週に引き続き、地区主宰の西日本豪雨被害に対する義援金についてBOXを廻しますので、まだお済みでない会員はよろしくお願い致します。

- ❖ パナー交換
初めてメーキャップいただいた大分県の津久見RC(戸高有基会長エレクト)とパナー交換をさせて頂きました。



- ❖ ニコニコ
• 椎野会長様一年宜しくおねがいします。(東京山王RC 細田治前会長)
• 暑さに負けずに頑張りましょう。(東京中央RC 植田昌吾様)
• この猛暑 平成最後の夏ですね。(辻喜代子会員)
合計 9,000円 今期累計 75,000円

- ❖ 画廊巡り報告
(初参加 清水みほ会員、高橋辰三会員)
【清水会員】
小学3年生を連れて、4ヵ所の画廊を廻らせていただきました。どの画廊にも価値の高い絵の展示があり、画廊の方が説明して下さる内容について子どもたちも興味津々で楽しく巡らせていただきました。

- 野呂会員の画廊では、展示されている絵の画家さんから絵の説明をお聞きでき、子どもたちの会話も弾んで参りました。
次回は11月13日にもう少し少人数のグループに分けての画廊巡りが予定されているので、また是非参加したいと思っております。
【高橋(辰)会員】
私は絵を買うほどの造詣もなく、今まで画廊というも

- のに縁がなく、今回初めて4ヵ所もの大きな画廊にお邪魔しました。
- 美術図鑑に載っているような高い価値の絵もあるので、子どもたちが絵に触ったりしない様に注意深く付き添うつもりでいたところ、子どもたちはきちんと見学してくれて安心しました。概して女の子の方が表示の金額のゼロの数を数えたり好奇心は旺盛でした。
- 子どもたちからも秋の画廊巡りに又参加したいとの話が出ていました。

- ❖ 会員増強表彰(小林真由美会員、白水真子会員)
昨年度会員増強に尽力されたお二人の会員に、2750地区ガバナーから表彰状が届き、椎野登貴子会長からお二人に読み上げた上で渡されました。

- ❖ イニシエーションスピーチ
上中一美会員
• 私は、東京都文京区千駄木という下町情緒あふれる町で生まれ育ち、OLを経て結婚し、男の子2名を育て、現在長男が東京で大学2年生、次男が京都で大学1年生になりました。
- 私は元証券レディで、主人はお客様の一人で当時銀行員でした。当時証券と銀行の間にはファイアウォールがあり、情報を流さないため交流は禁止されていたのですが、そんなこともあり私と主人は一層燃え上がってしまったのかもしれない。
- 主人が起業するにあたり、日本の法律は制約が厳しいためシンガポールへ移住し、海外旅行の延長のような軽い気持ちで4年間も滞在しました。子どもたちを現地の日本人学校へ入れようとして、現地の日本人会にも入会し、必要という推薦人2人も集めてもまだ入学許可をしてくれず、さらに「親の寄付とか経歴が問題となるのですぐ入学できる訳ではない」となかなか入学させてもらえませんでした。そのため、インターナショナルスクールも考えたのですが、こちらには、父母のどちらかが英語を喋れることという壁があり断念しました。そうこうしているうちに新学期開始が迫ってしまい、再度日本人学校に「是非入学させてほしい」と強硬に申入れたところ、急に「校長がまちがってサインしてしまったから、入れるかも。入学式の日に来て下さい。」と言われ、子どもと出向いたところ、すべての準備が出来ていて息子は2人共日本人学校生となれたのでした。
- シンガポールでの4年を経て、主人が京都で新しいチャレンジをしたいということで、家族で京都に戻りました。子どもたちを又京都の学校に転校させるのが大変なことでした。奥さんは何もしなくていいから、と言われていたものの、「一度顔を出したらずっと出すこと、一度も顔を出さないならずっと出さない」など不文律があり、苦勞させられました。子どもたち

